

埼玉親善大使レポート

Diciembre de 2017

小林 幹

12月になり、朝晩の冷え込みにも慣れて来ました。日中は日本でいう秋のような陽気に感じます。メキシコでの滞在も4ヶ月がすぎ、自分のスペイン語能力が伸びているのか心配になります。2回目のコースが終わり、1ヶ月の冬休み期間になりました。今回は、12月の1週目に行ったユカタン半島についてと友達とのお別れについて書きたいと思います。

友達との別れ

12月はお別れの時期で、学校でできた様々な国の友達が自国に帰ってしまい、私はとても悲しく感じます。自国に帰る友達は皆帰りたくないのに帰らなければならないので、メキシコに残っている身として、メキシコにいられることに感

謝してもっと勉強をしたいと思います。改めて恵まれた環境にいることを実感しました。

ユカタン半島

私が取っていた地理の授業で先生が「カンクンはメキシコではない」と言っていたので、私は興味を持ち行ってみることにしました。カンクンに着くと、先生の言っていた意味がすぐにわかりました。カンクンでは表記が全て英語で、ドルでの支払いも可能です。街を歩く人々も欧米の方々ばかりで聞こえてくる言語も英語ばかりです。しかし、リゾート地を抜けるとローカルなメキシコの町がありました。シティーよりも廃れていて、リゾート地とローカルエリアの雰囲気の違いや貧富の差を目の当たりにし、少し考えさせられる情景だと感じました。

それでも、カンクンはカリブ海に面しているために海はこ



れまで見たことないほど綺麗でした。ここでは、セノーテでシュノーケリングをしたり、海でダイビングをすることもできます。セノーテとは、ユカタンの特異

な地形が産んだ天然の泉のことで、石灰岩の地面が陥没し、その穴に地下水が溜まってできたもので透明度がすごく高い



です。そして、セノーテ近くにはアクマルというビーチがあり、ウミガメを見ることができます。また、古代マヤ文明のチチェン・イツァーやトゥルム遺跡などがあり、見所は満載で、リゾート

地として成り立っているのも納得できますが考えさせられる部分があるのも事実です。